

都市史

チームパスタ

神楽坂

17N1040 小林 起也

17N1043 近藤 真矢

17N1079 遠野 颯太

17N1105 本村 千絵

17N1115 米原 空

17N1121 綿谷 光

アドバイザー

池井戸 亮佑

久保田 和樹

庄 林



神楽坂の歴史

江戸前期	武家屋敷や寺社が多く配置。神楽河岸が物流拠点となり発展。
江戸後期	毘沙門天善国寺が麴町から移転、大いに賑わう。
明治	多くの武士が帰郷し、武家屋敷中心だった神楽坂は空き家が目立つ。東京遷都が決まり人口が再び増え、花街が形成。
～終戦	ターミナル駅が西に発展し神楽坂の地位が低下。そして空襲により街並みは灰燼に帰す。
終戦～	花柳界はいち早く復興。しかしバブル経済時に無秩序な開発が進む。「神楽坂らしさ」を残す取り組みが進行中。

道の変化



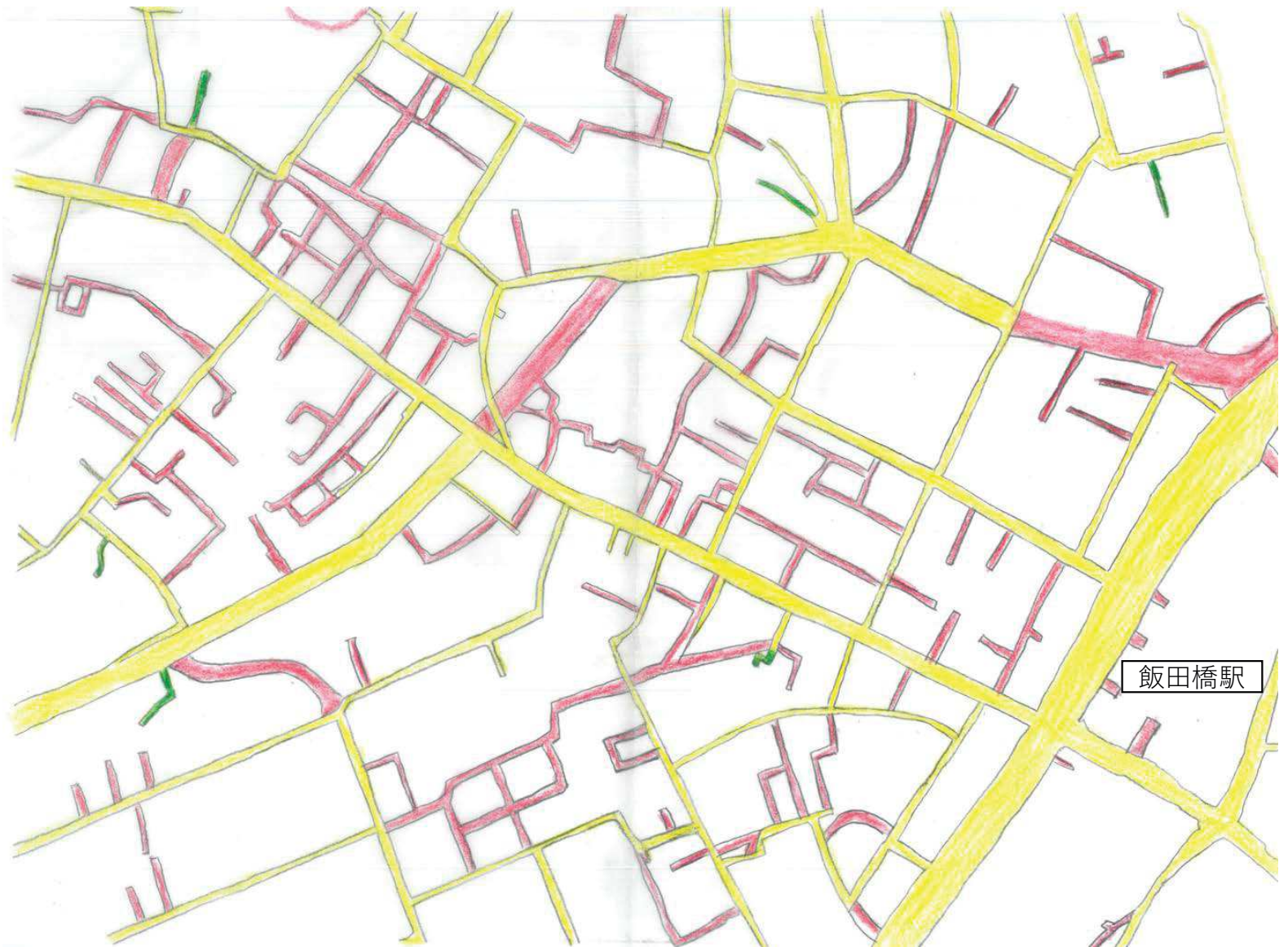
今も残る道



新しい道



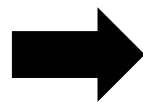
なくなった道



寺院・境界の変化



江戸

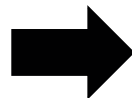


昭和

寺院・境界の変化



江戸



現在



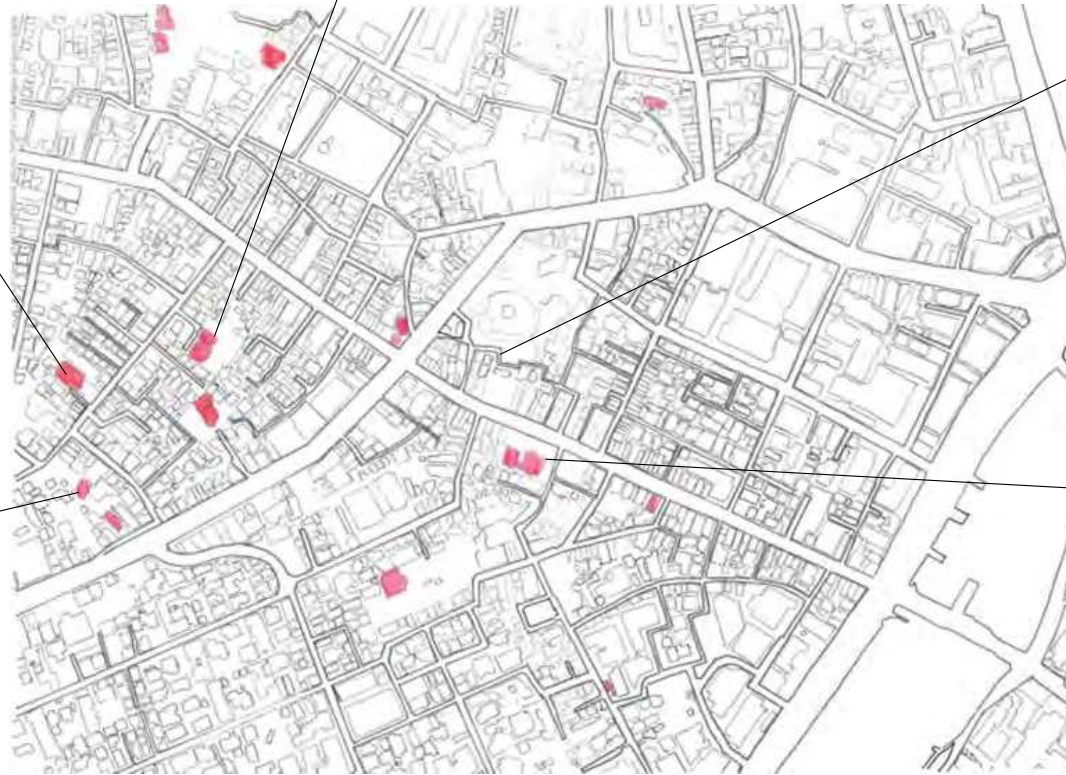
圓福寺



龍門禪寺



行元寺



大信寺



善国寺

考察

道

メインとなる道はほとんどのこっている。江戸時代の屋敷の敷地は細分化され、それに伴って網目状に路地ができた。大久保通りは江戸期以降に開発され大通りとなっている。その時に上書きされた道は今もなお残っている。

寺院

江戸から昭和にかけて新たに作られることはない。現代になるとさらに縮小化され、数も減っている。無くなった場所にはビルや住宅街が立ち並び、今もなお残っているものは建て替え、縮小化されもともとあった姿を失っている。